ゆとりの時間 過ごし方いろいろ

子どもと一緒に何しよう？　完全学校週五日制の開始を前に、保護者の間には、不安もあるようです。例えば、こんな過ごし方はいかが。休日に釣りを楽しんでいる一家、放課後にバトントワリングの練習に励む地域のサークルを紹介します。

親子で楽しむ 釣り

笠屋町の中岡さん一家

深まる家族の絆 環境問題に関心も

笠屋町の中岡和幸さん（四三）一家は、春から秋にかけて家族で釣りを楽しんでいます。完全学校週五日制についても「増える休日を気楽に、親も一緒に楽しんでみては」と話します。

中岡さん一家は、会社員の和幸さん、ホームヘルパーとして働く妻の美穂子さん（四〇）、鳴尾東小学校五年の綾乃さん（一一）、同二年の雅彦君（八つ）の四人家族です。七年前、幼稚園に通っていた綾乃さんに「マスってどんな魚？」と質問されたことをきっかけに、釣りに行くようになりました。

子どもにとっては生きた魚を触るのは初めての体験だし、親の方も全くの初心者でした。でも、仕掛けやえさについて、子どもと一緒に勉強したことが、親子のコミュニケーションに役立ったといいます。

最初のころは、市内の甲子園浜や鳴尾浜でサビキ釣りで、アジやイワシを釣る程度でした。そのうち淡路島や和歌山にまで足を伸ばすようになります。釣り方もランクアップし、仕掛けを使ったり、投げ釣りにも挑戦し、グレ、メバル、ガシラ、ハゲなどを狙うようになりました。

釣った魚は刺し身や塩焼きで味わいます。「自分で釣った魚はおいしい」と綾乃さん。和幸さんも、魚をさばけるようになりました。

「親子の間だけでなく、地元の人や他の釣り客との交流の輪も広がった」と美穂子さん。「子どもたちも自然に会話を交わし、人付き合いを学んでいったようです」と振り返ります。

また、釣りに行くことで、魚のことだけでなく「生きた勉強もできる」と和幸さんは言います。「汚れた海を見て環境問題について考えたり、季節による自然の移り変わりに目を向けるようになった」そうです。

そうした体験から、綾乃さんは海や魚をテーマにした作文や歌を発表するなど、関心に幅が出てきました。

でも「生き物がきらいだから」「週末は仕事の関係で休めなくて」と、外出できない家庭もあるでしょう。

「それなら家でケーキを焼いたり、カレーを作ったりしてみては」と美穂子さんは提案します。「仕事を任せると子どもは意外と張り切るもの」というのが、中岡さんたちの実感。火や刃物を使わせるのは、と二の足を踏む気持ちはわかるけれども「やってみないと加減は分からない」と強調します。

「震災のとき、ガスも水道もない中で生きる知恵の必要性を思い知らされた。皮むきに一時間かかってもいいじゃない、と大きな気持ちで楽しんでみては」

四月の声がそろそろ聞こえてきました。中岡家の釣りシーズンが再び始まろうとしています。

中岡家の休日の一こま。釣った魚を食べるのも楽しみのひとつとか＝甲子園浜

バトン

サークルで交流

F・Kリトルバトンティーム

宙に飛ばし、回転しながら落ちてくるバトンを、流れるように踊りながらナイスキャッチ。バトンさばきの腕を磨くのは、瓦木地区（瓦木、瓦林、深津小学校区）で活動を続けるバトントワリング・サークル「F・Kリトルバトンティーム」です。

バトントワリングは、さまざまなバトンの技を競うスポーツで、個人と団体の競技があります。三十年以上活動を続けるF・Kリトルバトンティームには現在、小学一年から中学三年までの二十九人がいます。

「お姉さんに誘われた」「見学に行ってかっこいいと思った」と、始めたきっかけはいろいろですが、みんなバトンに夢中で、毎週土曜日の練習に打ち込んでいます。

F・Kリトルバトンティームは、子ども会文化サークル連盟に加盟しています。当初は、地元のお祭りなどに出演することが中心でした。しかし、「試合に出たい」という子どもたちの声が高まり、今は関西大会、さらに全国大会への出場が目標です。

三月十七日には、青少年リーダーの養成活動などが評価され、市から「ふれあいの賞」が贈られます。

練習は毎回、三時間ほど。入念な柔軟体操から始まり、マット運動も取り入れます。子どもたちは近い年齢どうしでグループになり、斉藤裕子先生のお手本にじっと見入ります。先生から手足の使い方ひとつひとつに細かい指導が飛ぶと、体育館は緊張感で引き締まります。

瓦木小二年の大津莉慧さん（八つ）の目標は、「（バトンを）投げている間に、体を一回くるっと回して（バトンを）キャッチできるようになること」です。苦手な技ができるようになった喜びが、次の難しい技に向けて頑張る意欲につながるといいます。

小学一年からバトンを続けている瓦林小五年の牧野秋那さん（一一）は「新しい技ができなくて落ち込んでいるとき、メンバーがアドバイスをして励ましてくれる。違う学校の友だちも増えて、中学になってもバトンを続けたい」と話していました。

「この次どうするんやった？」。技を確かめ合い、思わず笑顔がこぼれる＝瓦林小学校

「苦手な技こなせた喜び」

休日の活用方法 ネットにヒント

西宮市のホームページには、地域活動や家庭教育についての情報もあります。増える休日をどう活用するのか。インターネットで検索し、参考にしてみては。

「西宮市子ども情報センター」のページには、阪神間や神戸の美術館や博物館、王子動物園や六甲山牧場など「のびのびパスポート」を利用できる施設のほか、スポーツや野外活動施設の案内を掲載しています。月々の催しについても情報誌「きっず情報局」で確認できるので、お出かけ先に困ったときは一度のぞいてみてください。

さらに「子育てに困ったとき、だれに相談したらいいだろう」といった悩みにこたえてくれる窓口も紹介しています。

「子育て相談」をクリックすると、市立子育て総合センター「のびのびあおぞら館」や、市内の子育てグループ、幼稚園・保育所の支援事業などの情報が分かります。

保護者へのアドバイスや母親へのインタビューなど役立つ内容のニュースレター「家族の絆（きずな）」、読者からのメールで構成する「子育てメール大募集」のページも参考にしてはいかがでしょうか。

県外の情報が必要な方は、充実したリンク集から探してみてください。

アドレスは
http://www.nishi.or.jp/~katei/